



ippō (いっぽ)

秋田県立支援学校
天王みどり学園
研究だより第1号
令和6年8月2日発行

<研究主題> 主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり
～ 教師による子どもの「見取り」に焦点を当てて ～

6月4日に行われた金沢星稜大学講師柳川公三子氏によるWeb会議システム（Zoom）を用いた職員研修について紹介します。今回は昨年度から本校で焦点を当てて取り組んでいる児童生徒の「見取り」についての研修を行っていただきました。

テーマ 今、求められる授業研究のあり方

研修では、実際の学習場面を想定し、「子どもの姿（事実）」から「子どもの姿の解釈（なぜ、そのような姿だったのか?）」を考え、その「解釈」について本校職員がそれぞれの視点からの「見取り」を伝え合い、考えを共有し合う演習を行いました。

【講義・演習の様子】



Zoomにて講義中の柳川氏



小グループでの演習の様子



【例】

Aさんが8時30分と書いた場面

Aさんは7時30分を指すアナログ時計を見て「8じ30ぶん」と書いた。
(S教諭)

Aさんは短針が8を指していると思ったのではないかと。
(S教諭)

Aさんは7時30分の時計を見て「8じ30ぶん」と書いた。
(T教諭)

Aさんは短針が7を過ぎているから8だと思ったのではないかと。
(T教諭)

【研修を受けての本校職員の感想】

ねらいの達成度（結果）にこだわってしまいがちだが、児童生徒の学びの過程に着目できるように意識したいと思った。

子どもの姿を「事実」と「解釈」に分けて捉え、教師間で考えを共有することで子どもの課題が明確になり、指導の方向性が定まると感じた。

【研修・演習を通して】

○「事実」と「解釈」を分けて見る ○相互に尊重し合い傾聴する ○多様な見方があることを知る
この3点の大切さを再認識するとともに、研究の取組を進めていく中で、本校の職員の「同僚性を高めしていくことの重要性を学ぶことができました。

柳川氏には12月5日（木）に行われる本校の公開研究会でも講演を行っていただきます。